

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	C：テクノロジーの革新と日本の美学および感性
研究テーマ名	観客と共創する芸術—光・音・身体の共振の社会的・芸術学的・工学的研究
研究代表者	山崎 敬一
所属機関・部局・職	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究成果の総合評点：B	
研究成果に係る所見	
<p>国際学会への参加、海外からの講演者を招いてのシンポジウム、展覧会、コンサート、歌舞伎舞台など、研究成果の積極的な発信が行われた。但し、平成31（令和元）年度以降の研究成果が滞っている。実験型のミニライブ、パフォーマンスなども適宜行われており、相応の成果が認められる。ペンライトの開発には成功しているが、それとエスノメソドロジーとの関係が明確になっているとは言えない。また日本の美学および感性との関連も不明である。全般的に見て、一定の成果があった。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったと言い難い